

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
	課題 ・授業における 8 つのポイントの共通理解を図ること。		

※計画書の見方

○「進捗状況」について………A:検討中 B:着手済 C:令和5年度から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について…【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1)目指す児童生徒像について

N O	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B C D	<u>ブロックの共通する児童生徒像</u> 「未来に向かって、いきいきと学び続ける児童生徒の育成」 ・自ら課題を見つけ、主体的に学び合い、解決する子 ・自他を認め励まし合い、自信をもって困難に立ち向かう子 ・多様な人々との協働を通して、自律心や社会性を身につける子 <u>学校独自の児童生徒像</u> 温かい笑顔あふれる新方っ子
2	資質・能力 身につけさせたい	A B C D	<u>ブロックでつけさせたい資質・能力</u> 「コミュニケーション能力」(根拠をもとに自分の考えを述べる力) ・自らの課題を見つけ、様々な人々との協働を通して、主体的に学び合うことで課題解決を図る力 ・自他のよいところを認め励まし合う中で自己肯定感を高め、自信をもって様々な困難に立ち向かう力 ※全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査等の分析から、根拠をもとにしながら自分の考えをもち、発表することが苦手であることが判明したため、その力の育成に重点をおくこととした。 <u>学校でつけさせたい資質・能力</u> 創造してたくましく生きる力 ・「頭のあせ」いっぱい 剥がれ落ちないが身についた新方っ子 ・「心のあせ」いっぱい 気づき・考え・行動する新方っ子 ・「体のあせ」いっぱい 学びを人生や社会に生かそうとする新方っ子
3	合同研修組織の設置	A B C D	<u>合同研修組織部会名等</u> (1)小中交流部会 (2)小中授業部会(全教科等の部会) (3)小中データ部会 ※授業を重視した組織部会に編制し直した。 <u>学校独自の部会名等</u> (意見をつなぐ学び合いの実践を基軸として研究) (1)授業研究部 (2)学習環境部 (3)効果検証広報部

(2)小中一貫教育7つの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など ・「授業における8つのポイント」の中から、わくわく感のある授業づくりの前提である「課題設定、自分の言葉でまとめる、意図をもった振り返り」の3つを小中共通でどの授業でも行うようにする。 【具体的な取組】 ①第1回3校合同研修会で、「授業における8つのポイント」の実践について全体で共通理解を図るとともに、わくわく感のある授業づくりをめざして、小中授業部会で「課題設定、自分の言葉でまとめる、根拠を明確にした話し合い、意図をもった振り返り」について共通理解を図り、1学期の授業で実践する。 ②夏季休業中の3校合同研修会で、市教委から「課題設定、根拠を明確にした話し合い、自分の言葉でまとめる、意図をもった振り返り」についてご指導をいただき、1学期の実践の振り返りを行う。 ③夏季休業中の3校合同研修会では、小中の教員を全教科等に分かれてチームを組み授業改善を行う。 ④小中で相互授業参観を行い、系統性や指導法の確認を行う。 

4	学習過程の工夫と学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	学校独自の内容・取組 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・「ていねい」な学習の推進を行い、学びに向かう力を育成していく。 【P】 (1)「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を踏まえた、子供同士の意見をつなぐ「学び合い」の授業の質の向上を全教科で組織的に行う。(年度当初の研修会で共通理解) (2)8つのポイントについて共通理解を図る。特に、「学習課題の設定、自分の言葉でまとめさせる、意図をもった振り返りを行う」3つの重点ポイントを定め、全教員が実践できるようにする。 (3)算数科を中心に、「習熟度学習」や「セレクト学習」など授業形態を工夫し、個に応じた指導を行う。 【D】 (1)―①「どのように学ぶか」という学びの過程を大切に「個別最適化学び」「協働的な学び」を実現していく。 (年度当初の研修で確認) (1)―②まとめと正対するような学習課題を設定する。 (年度当初の研修で指示) (1)―③自分の言葉でまとめさせるためにつなげる話し合い活動を年度当初の研修等で確認し、教職員全体で組織的に 行い、充実させる。 学び合いの約束事として (1)つなげる(2)ハンドサイン(3)発表の仕方(4)三角ロジック 1の型 挙手術 同じ 付け足し 違う 質問・他 2の型 話術 OOさんと 同じ・付け足し・違って・質問で・・・です。 根拠は・・・です。理由は・・・です。 つなげてください。 ――: 同意 ――: 付け足し ←→: 違う 意見の流れを振り返りながら、意見のつながりを考えよう！ つなげてください 三角ロジック (発表の時) (1)―④より魅力ある学び合いの授業にするため、教師がよきファシリテーターとなり、意見の対立を調整したり、積極的な意見交換を促したりできるよう研修主任を中心に研究を進めていく。 (2)―①校内の部会で課題提示や発問の工夫について検討し、児童にとってより分かりやすく魅力ある授業を目指す。 (2)―②基礎・基本の徹底を図るため、国語科では、単元を貫く言語活動に取り組み、意味調べや物語等読解を重点的に行うよう、研修主任を中心に周知、実践する。算数科等各教科において子ども主体で自力解決できる時間を確保するよう、全教職員で共通理解を図っていく。 (2)―③学習指導要領で授業のねらいを確認し、確実に基礎基本を身につけられるよう、全教職員で教材研究の仕方を研修していく。
---	---------------------------------------	---

4	(授業における8つのポイントの活用) 学習過程の工夫と 学習形態の工夫	A B ◎ D	(3)－①学年ブロック(5, 6年)で、授業を交換する。チーム(1, 2年、3, 4年)で授業を行う。 (3)－②「習熟度学習」や「セレクト学習」では、個に応じた授業展開を工夫する。(年度当初に職員研修) 【C】 (1)(2)相互授業参観、研究授業や公開授業を通して、学び合い授業が実施されているかを確認し、子どもの変容を見る。 (1)(2)管理職が教室巡視で「教師が教え、話す授業から子ども中心の学び合い授業」へと変化しているかを参観する。
5	板書計画の習慣化と ノート指導の 統一化	A B ◎ D	ブロックでの共通内容・取組内容など ①児童生徒の思考の内容が分かり、児童生徒自身が学びを振り返ることができるよう、構造的な板書を作る。 ②児童生徒が自分の考えをメモしながら、まとめられるようなノートづくりを系統立てて指導する。 具体的な取組 「板書事項の小中統一」 ・課題、めあて、ふりかえりのカードを共有化した板書。 ・板書をノートに記入するだけでなく、「自分の考えの根拠や、考える過程が見えるノートづくりを進める。 ・小中で国、社、数、理のノートの書き方を統一。(課題やめあてと正対したまとめ。振り返りの記入)

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	学校独自の内容・取組 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・授業の流れがわかる板書計画を習慣化していく。 ・「考える過程」が見えるノート指導を行っていく。 【P】 (1) 単元及び毎時間の目標やポイントを明確化するとともに授業の流れとつながりの見える板書 (2) 自分の「考える過程」が見えるノート作りができる授業展開の工夫とノート指導。 【D】 (1) 「授業の流れを統一化し、教師・児童ともに見通しの持てる板書及びノート指導を工夫する」ことを研究の視점에掲げており、毎日の授業では全授業で、めあてや課題を明確に示すことにより、見通しの持てる板書を行っていく。その際、「何を学習するのか」を頭に入れながら、まとめと正対するような学習課題（～かという問いかけ形）を設定する。（年度当初の研修で指示）【一部 No4 参照】 (2) ー①自分の「考える過程」が見えるノート指導を目指し、教師の板書計画と連動してパターン化する。教科によっての特性を考えながら、ノート指導ができるよう全職員で取り組んでいく。（年度当初に周知） (2) ー②意見をつなぐ学び合い学習において、視覚的なメモの取り方を児童に示し、思考ツールやメモ活用したノートづくりを行えるように研修主任を中心に組織的に取り組む。（年度当初確認） (2) ー③終末10～15分間を確保し、学習のまとめ作文を書かせることで、本時の振り返りをさせる。書かせることで学習内容の理解や学力の向上へつなげていくよう、研修主任を中心に計画・実行していく。学年に応じて具体的、複数の条件をつけた作文を書かせるようにする。（年度当初に確認）
		【C】 (1)(2)ー①管理職が教室巡視し、見届け、指導をしていく。 (1)(2)ー②教員同士で授業参観を行い、意見交換をし、授業力向上を図っていく。

6	生活規律の共有化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・学校生活のきまり「あいさつ」を大切にする。(おおきの「あ」) <学習規律11項目>の生活規律に関する6項目を重視する。 ②5分前行動1分前着席を心がけよう ③ゴミのない環境で授業を始めよう ④机の列は常に整頓された状況にしよう ⑤あいさつは大きな声でしよう ⑥起立をするときは椅子を机に入れよう ⑧先生に指名をされたら「はい」と返事をし、起立をして発表しよう。 <u>学校独自の内容・取組</u> <u>【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】</u> ・全教職員で「あじそく教育」の見届けを行い、徹底を図っていく。 ・「あいさつ」「くつそろえ」を家庭にも啓発し、定着、習慣化を図っていく。 <u>【P】</u> (1)「あじそく教育」の教職員の意識の向上と指導の徹底と家庭・地域との連携。 (2)児童と教員で作成した「新方っ子のやくそく」の実行と見直し。 <u>【D】</u> (1)－①生徒指導部会を中心に「あじそく教育」の徹底にむけた対応策を検討していく。「挨拶をします」「時間を守ります」「掃除をしっかりとします」「靴をそろえます」(挨拶運動や学級指導の徹底等) (1)－②学校だより等で家庭や地域にあじそく教育を知ってもらうとともに、各学級で朝の会で家庭や地域での取組の評価をしていく。 (2)「新方っ子のやくそく」を実行し、代表委員会を中心に適宜児童とともに見直し、検討を重ねていく。
---	----------	---

7	学習規律の共有化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・授業の準備や時間を守る、授業中の姿勢などの規律、発表の仕方、あいさつなど学習規律「小中9年間の学習のやくそく 11 項目」を小中で共通に設定し、各教室に掲示することで指導の徹底を図る。 また、年度当初の 3 校合同研修会で 11 項目の確認と児童生徒の現状を分析し、今年度の重点項目を定め、各学校で実践していく。 <学習規律11項目> ①授業前に各教科の用意をしましょう。 ②5分前行動1分前着席を心がけよう ③ゴミのない環境で授業を始めよう。 ④机の列は常に整頓された状況にしよう ⑤あいさつは大きな声でしよう。 ⑥起立をするときは椅子を机に入れよう ⑦発表するときは手をまっすぐに上げよう。 ⑧先生に指名をされたら「はい」と返事をし、起立をして発表しよう。 ⑨授業中は私語をせず、顔を上げて先生の話进行を聞く。 ⑩身体ごと前をみて授業を受けよう。 ⑪ほおづえ、ひじつき、居眠りは絶対に禁止。 <u>学校独自の内容・取組</u> <u>【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】</u> ・学習規律を全教職員で徹底していくことで、児童の学びに向かう力を高めていく。 【P】 (1) <u>学習規律の教職員の意識向上と指導の徹底。</u> (2) <u>生徒指導 4 つの視点(①自己存在感の感受②共感的人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成)を踏まえた「自己指導能力」の育成。</u> 【D】 (1)－①生徒指導部会で重点項目を確認し、チェックシート等を活用して徹底を図る。 (1)－②本校の「あじそく教育」を全職員で着実に実践していく。【全校朝会での生徒指導部からの話】 (1)－③話を聞くときは、作業の手を止めて目と耳と心で聞くよう、全職員で統一した指導を行っていく。 (2)－①ブックレット「授業における自己肯定感の高揚」についてを参考に、授業中に子どもを認め、ほめていく実践を行う。 (2)－②④より魅力ある学び合いの授業にするため、教師がよきファシリテーターとなり、意見の対立を調整したり、積極的な意見交換を促したりできるよう研修主任を中心に研究を進めていく。【No4 参照】 (2)－③算数のセレクト学習等、子どもたちが自己選択、自己決定できる場をより多く設定することで、自己肯定感を高め、何事も恐れず挑戦する心を一層醸成していく。【No.4 参照】
---	----------	---

8	(家庭との連携)	家庭学習の統一化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ①「北陽中学校区家庭学習のすすめ」を小中学校で活用し、小中9年間をととして家庭学習の習慣化を図る。 ②中学生の自主学習ノートを小学校の高学年に紹介し、中学校での家庭学習に備える。 ③中学校の定期テスト期間に合わせて、「学力パワーアップウィーク」を設定し、小学校でも家庭学習の活性化を図る。 ④家庭学習で、e-board やコバトン問題集を小中で周知し、活用を図る。
			<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・家庭学習の内容を検討し、意欲を向上させることで習慣化を図っていく。 【P】 B (1)家庭学習の在り方、内容を検討し、児童の学習意欲が向上する取り組みとなるようにしていく。 (2)家庭での読書を習慣化できるようにしていく。 ◎【D】 (1)－①確かな学力の育成のために、家庭の協力のもと家庭学習に取り組んでもらうことと、「学年×10+10」分を引き続き継続する。 (1)－②自主学習ノートを作成し、自分の興味を持ったことから取り組むことで習慣化を図っていく。 (2)図書主任を中心に授業のすきま時間を読書の時間に充てることで、読書の習慣を学校で身につけるとともに、学校だよりや図書だよりで読書週間等の取組を周知し、家庭と連携して取り組むことで習慣化を図っていく。



(3) 学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
10	書く活動の重視	◎	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> 令和5年度の各種学力・学習状況調査の結果等から、小中ともに書くことへの抵抗感をなくすことが課題である。そのため、北陽中ブロックで共通して、書く活動に重点を置く。 ①すべての教科で自分の考えを書く活動時間を取り入れる。 ②小中それぞれの実態に合わせて、書く活動を取り入れた教育課程を編成し、実践する。
			<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・各教科において自分の言葉で書く活動を取り入れ、書く力のさらなる向上を図る。 【P】 B (1)自分の「考える過程」が見えるノート作りができる授業展開の工夫とノート指導。 ◎【D】 (1)－①自分の「考える過程」が見えるノート指導を目指し、教師の板書計画と連動してパターン化する。教科よっての特性を考えながら、ノート指導ができるよう全職員で取り組んでいく。(年度当初に周知)【No5 再掲】 (1)－②意見をつなぐ学び合い学習において、視覚的なメモの取り方を児童に示し、思考ツールやメモ活用したノートづくりを行えるように研修主任を中心に組織的に取り組む。(年度当初確認)【No5 再掲】 (1)－③終末10～15分間を確保し、学習のまとめ作文を書かせることで、本時の振り返りをさせる。自分の言葉で書かせることで、学習内容の理解や学力向上につなげていくよう研修主任を中心に組織的に取り組む。(年度当初に確認)【No5 再掲】 【C】 (1)管理職が教室巡視し、見届け、指導をしていく。【No5 再掲】

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析	A B ◎ D	<u>学校での分析結果</u> ①総合的な学習の時間の SDGsなど自己決定の場を多く設定し教育活動に取り組んできた成果が表れ、「自分には良いところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれる」「難しい事でも失敗を恐れず、挑戦している」の項目において肯定的な回答をする児童が増えた。 ②引き続き、児童の自己肯定感を高めるため、たてわり活動の充実を図ることを通して、互いに認め合ったり、自己決定したりする機会を多く設定する。
13	自己肯定感を授業の中で高める取組	A B ◎ D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ①授業中に児童生徒のがんばりを褒める、認めることを基本としつつ、振り返りの場面で、「今日の学習で自分は何が分かったのか、何ができるようになったのか」の視点で振り返りを行い、児童生徒が自分の成長を感じることができるようにする。 ②夏季休業中の3校合同研修会に指導主事を招いて、「授業における自己肯定感の高揚」について指導していただく。 <u>学校独自の内容</u> <u>【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】</u> ・子ども主体で生き生きと学習に取り組むことができるよう授業を工夫・改善していく。 【P】 (1)授業展開や発問を工夫するなど子ども主体の授業を行っていく。 (2)子どもたちの自己決定の場を意図的に多く設定する。 【D】 (1)－①「どのように学ぶか」という学びの過程を大切に「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現していく。(年度当初の研修で確認)【No4 再掲】 (1)－②より魅力ある学び合いの授業にするため、教師がよきファシリテーターとなり、意見の対立を調整したり、積極的な意見交換を促したりできるよう研究を進めていく。【No4 再掲】 (1)－③課題提示や発問の工夫により、児童にとってより分かりやすく魅力ある授業を目指す。【No4 再掲】 (1)－④基礎・基本の徹底を図るため、国語科では、単元を貫く言語活動に取り組み、意味調べや物語等読解を重点的に行うよう、研修主任を中心に周知、実践する。算数科等各教科において子ども主体で自力解決できる時間を確保するよう、全教職員で共通理解を図っていく。【No4 再掲】 (1)－⑤ブックレット「授業における自己肯定感の高揚」についてを参考に、授業中に子どもを認め、ほめていく実践を行う。【No7 参照】 (2)－①算数のセレクト学習等、子どもたちが自己選択、自己決定できる場をより多く設定することで、自己肯定感を高め、何事も恐れず挑戦する心を一層醸成していく。【No.4 参照】 (2)－②総合的な学習の時間に取り組んだ「教育漫才」を保護者や地域の方に向けて発表し、子どもたちの自己肯定感の高揚を図る。 【C】 (1)(2)管理職の教室訪問や児童の変容で変化をみとっていく。

14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・北陽中学校区の目指す児童生徒像の「多様な人々との協働を通して、自律心や社会性を身につける子」を目指すことで自己肯定感を高めていく。 【具体的な取組】 以下の取組を行う中で、児童生徒の活動を把握しながら、認めていくことで自己肯定感を高める。 ①小学校の体育発表会運営補助に中学生がボランティアとして参加する。 ②中学生による小学校でのあいさつ運動の実施。 ③部活動とクラブ活動の交流(陸上部、吹奏楽部) ④合唱での交流 ⑤小学校で卒業生である中学生と語る会の実施 ⑥中学生の自主学習ノートを小学校に掲示 ⑦美術、書写等の作品掲示(小→中、中→小) ⑧入学説明会での生徒間交流 ⑨夏休みの補習授業の補助(赤ペン先生) <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・教職員が承認力を養い、「児童一人一人のよさ」を見つける力を育てる。(リフレーミング的指導) 【P】 (1)自己肯定感の醸成を促す取り組みを計画的に行っていく。 (2)地域との連携を強化し、地域の一員としての自覚を持たせる。 【D】 (1)－①児童会を中心にたてわり活動を月1回行うとともに、児童会活動の目的や内容を検討し、異年齢交流の活性化を図る。 (1)－②持久走やなわとびを記録会とし、個人内目標を立て、取り組ませる。 (2) 教頭が連絡役となり、地域の虫追い祭りや地区センターの催し「新方地区フェスタ」の案内をし、児童の参加を呼びかけるなど地域の行事や活動への関心を高めさせる。
----	---------------------	------------------	---

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
15	(行事・学習・作業など) 児童生徒間の交流	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ①小学校の体育発表会運営補助に中学生がボランティアとして参加する。 ②中学生による小学校でのあいさつ運動の実施。 ③部活動とクラブ活動の交流(陸上部、吹奏楽部) ④合唱での交流 ⑤小学校で卒業生である中学生と語る会の実施 ⑥中学生の自主学習ノートを小学校に掲示 ⑦美術、書写等の作品掲示 ⑧入学説明会での生徒間交流 ⑨夏休みの補習授業の補助(赤ペン先生) <u>学校独自の内容</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・オンライン等、交流の仕方を工夫改善していくことで、交流の機会を増やしていく。 【P】 (1)中学生を通して中学校生活の様子を知ること、中一ギャップの解消を図っていく。 【D】 (1)－①小中一貫交流部会を中心とした中学生による「朝のあいさつ運動」 (1)－②小中一貫交流部会を中心とした中学生による部活動や合唱の交流。 (1)－③卒業生である中学生と語る会の実施

16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流	A	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ①小中合同研修会の中に、小中合同教科等部会を設定し、小中で9年間を見通した指導方法の工夫改善を図る。 ②小中相互授業参観を適宜行う。(支援担当訪問の公開授業、校内授業研究会の開催時など) ③国、数、社、理、英で中学校の教員が小学校へ出向き、小学校6年生の学級で授業を行う。 ④小中の道徳教育推進教師が、お互いの授業を見合い、道徳における指導方法を確認する。 ⑤Webex を活用して、小中での教科会を行う。
			<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・コミュニケーション能力のより一層の向上 【P】 (1)3校連携し、授業改善を図っていく。 【D】 (1)－①PDCA サイクルでデータ部会による分析から課題を見出し、各教科部会を中心にコミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを検討し、実施していく。 (1)－②各教科部会を中心に小中間で授業参観を行い、学校間での授業における共通理解を図り、今後の授業改善に生かす。

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容	P D C A
17	地域を活かしたカリキュラムの開発	A	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> 北陽中学校区の地区は、様々な地域人材や資源が様々ある。その地域人材や資源をいかしたカリキュラムを各小中学校で作成し、実践することで、地域に開かれた北陽中学校区を目指す。 【地域の人材、資源】 ・農家 ・越谷特別支援学校 ・新方地区センター ・わかば幼稚園など	
			<u>学校独自の内容</u> 【昨年度の課題を踏まえた今年度の課題】 ・PTA 組織体制の見直し(必要な時のボランティア制) ・野菜作りや図書館整備、登下校の見守りなど学校応援団の方とより連携し、学校教育の活性化を図る。 【P】 (1)PTA 組織を見直し、ボランティアを募って教育活動の <u>に協力をいただけるようにしていく。</u> (2)保護者や地域、学校応援団とより連携を図り、子どもたちのためにできることを計画・実行していく。 【D】 (1)校長指導の下、PTA 本部と話し合い、運動会の準備や片付け、図書館整備等ボランティアを募って教育活動の活性化に向け、協力をいただけるようにしていく。 (2)－①学校応援団の協力を呼びかけるなど、活動を活性化させるとともに、「子ども110番の家」との連携を密にし、児童の安全指導に役立てる。 (2)－②総合的な学習の時間の SDGs の学習で新方農園での野菜や稲づくり等、地域の方の協力を得ながら取り組みを進めていく。	